

論文を投稿される前に、下記の各項目を満たしているかをチェックして下さい。

### 【全般】

- 投稿論文は、他の出版物にすでに発表あるいは投稿していない。
- 論文の形式(「原著」、「短報」、「報告」、「実践報告」)を明記している。
- 共同執筆者は、論文作成に関与し内容を承諾している(署名済みの共著者の同意書を提出)。
- 著作権の帰属に関して承諾している。また、インターネット上での公開を了解している。
- 投稿規定 9.に記載している「倫理規定について」、所属施設からの承認を受け、その承認番号を本文中に記載している。
- 投稿規定 10.に記載している「利益相反について」、自己申告すべき内容がない場合は、利益相反はないと記載している。ある場合は、投稿規定 12.5 の記載例のように記載している。
- 論文は投稿規定に従って、表紙、要旨、キーワード、本文、利益相反の明記、引用文献、英文でタイトル・要旨・キーワード、図・表の順にまとめられている。本文は、はじめに、方法、結果、考察、謝辞と明確に区分され、論理的な流れで、わかりやすく、適切な用語を使用し、自然で読みやすい文章で記述している。また、句読点は統一されている。
- タイトル、キーワード、図表タイトルおよび図表中では、抗菌薬名は一般名で記載し、商品名は使用していない。また、投稿規定 13.に従い、略号、省略形を使用した場合は、最初は「full spell(略号、省略形)」となっている。菌種名は、学名を用いてイタリック体(斜体)で記載し、初出時に full spell とし、以後は属名のみを略して記載している。
- 本文と図表の数値が一致していること、記号、測定単位、本文中と引用文献との対比に矛盾がないことを確認している。
- 本文には、表紙を 1 ページとしたページ番号と、行番号(第 1 ページからの通し番号)を表示している。
- 投稿規定 14.に規定するように Microsoft Word で本文を作成し、図表は、Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint 等で作成している。用紙設定、ファイル名は投稿規定に従い、容量は、合計 10MB 以内である。

### 【表紙】

- 表題、著者名、所属、連絡先[郵便番号、住所(施設の場合は所属機関、所属科名などを明記のこと)、電話番号、E-mail アドレス]、ページ数、図表の数を記載している。表題、著者名、所属は、英語も併記している。著者の所属欄に肩書・資格は載せていない。
- 論文の主題を的確・簡潔に表現している表題にしている。

### 【要旨】

- 十分に要約され、データを含め本文に記載されていない情報を記述していない。また、本文を参照することなく、記載内容が理解でき、不明瞭な略号等は使用していない。
- 背景・目的、方法、結果・結論の項目立てを行い、簡潔に理解できるように記述している。特に、新しい知見などの投稿論文の「特徴・意義」に関しては、明確に記述している。

### 【キーワード】

- 5 語以内で、日本環境感染学会ホームページに掲載されている用語集などを参照し、記載している。

**【はじめに】**

- 既知の情報の有無を他の研究論文を引用して明確に説明し、研究の新規性を記述している。一般論を冗長に述べていない。
- 最終段落で、研究の目的を明確に記述している。

**【方法】**

- 読者が実験を再現できるように十分な情報が記載されている。標準的な方法を使用した場合は、出典した文献を引用し簡潔に記述している。
- 疾患名などの用語は、医学用語辞典などを参照して使用している。

**【結果】**

- 読者が理解しやすいよう、可能な限り方法の項と連動させて客観的に事実のみを記述している。方法に記載されていない項目を結果に述べていない。
- 抗菌薬感受性成績は、MIC を明記している。原則として判定基準がない抗菌薬に対して“感性”、“耐性”と表記していない。(該当する場合)
- 図表は、著者の主張が容易に理解でき、読者が理解しやすいよう工夫して作成している。本文で簡単に記述できるものは、図表にしていない。図表を使用する場合は、図表内容(成績)をそのまま重複して本文に記述するようなことはしていない。必要に応じて統計処理を行い、結果の解釈の妥当性を示している(統計分析をした場合は、方法で明記してある)。有効数字、小数点以下の桁数などは揃えてある。

**【考察】**

- 結果の単純な繰り返しは避け、結果で得られたデータの解釈を十分に論述している。
- 論旨に一貫性があり、読みやすいように工夫している。
- 新しい結果(知見)や特徴的な知見については、過去の論文との対比を行い、投稿論文の“価値”ができる限り容易に理解できるよう記述している。
- 必要に応じて、研究の限界に関して記述している。
- 最終段落で、データの解釈に基づいた結論が記述している。

**【謝辞】**

- 本文中で謝辞を述べる際には、関係者同志が事前に確認し合い了解を得ている。

**【引用文献】**

- 医学中央雑誌、PubMed 等に掲載されている学術文献や厚生労働省報告などとし、商業誌の引用は可能な限り避けている。
- 本文中の引用した箇所の右肩に片カッコ付で番号を付して引用順に末尾に一括し、次の形式によって記載している。雑誌名の略記は、医学中央雑誌および Index Medicus に従っている。引用文献の記述形式は Vancouver' style の最新版に準じている。すなわち著者が 6 名以下の場合は全員記載し、7 名以上の場合には初めの 6 名を載せ、以下“他”としている。著者のイニシャルの後にピリオドは不要。また、雑誌名は、斜体文字で記載している。
- インターネット掲載文献の引用は URL を記載し、引用した年月日を明記している。